

B-3 実践の内容

題材名「世界の音楽めぐり」

○第一次・・・世界の音楽を鑑賞しよう。(1時間)

ホーミー、三味線、アルプー、ガムラン、バグパイプ・・・など教科書にでている12曲を聴こう。

たくさんの曲をあきさせずに紹介するために、地域ごとに3グループに分け、その中で自分が一番気に入った曲を選ぶというワークシートを作成した。多様な世界の音楽に触れるとともに、この後に学習する日本の伝統音楽との違いも聴きとって欲しいと思い記入欄を作成した。前述したように、LDとCDでの学習であったがやはり視覚に訴えるものがあると、子どもたちの興味関心のレベルがぐんとあがる。一時間、集中して鑑賞できた。ワークシートには、個々それぞれの好みの曲が理由とともに書かれ、また日本と外国の曲の違いでは、テンポがちがう・にぎやかだ・国によっていろんな楽器や歌がある、などと比べてくれた。しかし、聴く視点をもう少し絞ったワークシートを用意すれば、音色の違いなど具体的に鑑賞できたのではないかと、授業後に反省した。また、一人ひとりの考え方の違いを共有するためにも、授業の終わりに書いたものを紹介する時間が取ればよかったと思った。

児童の感想

- ・ 国によって、いろいろな楽器や歌があって、それぞれ特徴のある音楽だと思いました。
- ・ 日本の音楽もいいけど、世界の音楽もその地方独特のものがあって面白かった。ただ、歌の言葉がわからないのが残念だった。
- ・ 全部ちがう国だったから、それぞれ音や楽器やリズムがちがっていました。国によっていろいろな音があるんだなと思いました。
- ・ いろいろな地域の音楽を聞いて、日本の音楽と違うなあと思った。たくさんの楽器を知ることができて良かった。きれいな音楽がたくさんあった。

○第二次・・・「ケチャ」のリズムを楽しもう。(3時間)

- ・ 1/3時・・・「ケチャ」を鑑賞しよう。

鑑賞した子どもたちは、大勢の人が輪になって様々な声を出す様子に、最初は驚いた様子であったが、次第にその雰囲気引き込まれ、「みんなもやってみるよ。」と話す喜んでいた。

児童の感想

たくさんの人たちの、いくつかの言葉(「チャ」など)が重なっていたのがすごいと思った。始めに「第一場 祈り」と書いてあったように祈っているようだった。途中、少しお経みたいだった。大きな声で迫力があつた。声や形がきれいにそろっていた。

鑑賞後は、教科書に出ている「ケチャのリズム」をやってみた。「たぬき」「こぶた」という言葉を使ってのとても取り組みやすい教材である。各パートごとに練習したときはまちがえずにできたのだが、声を重ねるときは、4拍に3種類のリズムパターンを組み合わせるのがなかなか合わず、「思ったより難しい」との感想があつた。

児童の感想

- ・みんなでやったら、バラバラだった。3回目でやっとうまくできた。また、やりたい。楽しい。
- ・みんなで一斉に発声すると、「ケチャ」っぽくなった。結構、②と③が難しかった。もうちょっと、声を出すともっと良くなると思った。
- ・私は②番をやったけど、ずれる理由が後でわかった。「チャ(ヌキ)」のところを「チャヌ」くらいで切っていた。「ケチャ」はとても難しいけれど、みんなで合わせるのが楽しい。

- ・2/3時 3/3時・・・「ケチャ」の表現を楽しもう。

橋本龍雄作成「小学生のためのケチャ」の楽譜を配り、パート分けをした。教科書のケチャより本格的なので最初は喜んでいて、16分音符のリズム読みなど複雑な要素に次第にお手上げ状態になった。最初の1時間目の感想はどれも「リズムが難しい」「速さがわからない」であった。この結果は、楽譜を渡してすぐにパート練習に入ったことにもあると思い、2時間目には次の手立てをとった。

- ① パートごとのリズムをカセットテープにふきこんだものを準備した。(リズム対策)
- ② もう片面には、メトロノームの音のみを録音した。(速さ対策)
- ③ パートごとに、1小節を4つにくぎったリズム譜を準備し、どのパートがどこでそろうのか確認した。(視覚にうったえる)
- ④ 20小節ある楽譜を省略した。(A: 全員で声を合わせる5小節→B: 6つのパートに分かれる4小節→C: 終わりの2小節)

難しいBの部分省略したことで、なんとかどのグループもリズムの確認ができ、授業の最後には全員で合わせることができた。驚いたのは1つのグループが、自分たちで「チャ」と声を出す部分と無音の部分から、「チャ」のつく言葉を基に「お茶 麦茶・・・」と創作してリズムを覚えたことである。子どもらしいアイデアに感心した。

子どもたちの姿から楽譜を省略したのであるが、「ケチャ」の特徴的なリズムの要素がとらえることができ、また子どもたちの一生懸命な取り組みによって、短時間で仕上げることもできた。子どもたちの感想から、「ケチャ」を自分たちで表現することができたという喜びも感じられた。

○第三次・・・日本の楽器「箏」の演奏を聴こう。(ミニコンサート)〈1時間〉

「世界の音楽めぐり」という題材の「世界」の部分から、今度は「日本」に目を向けて、日本の楽器である「箏」の音色を聴いてみようとする導入で話した。

ゲストティーチャーに来ていただき、目の前で「箏」を演奏してもらった。途中、箏だけではなく三味線の紹介も交えながら進めていただい

(プログラム)

- ① 先生方の紹介
- ② 夏の唱歌メドレー 「茶つみ～夏はきぬ～海～夏の思い出」
- ③ ディズニーメロディー小曲集 「星に願いを」
「ミッキーマウスマーチ」
「イツ ア スモールワールド」
「チムチムチェリー」
- ④ 箏の紹介と説明
- ⑤ 十七絃の箏の紹介 「もののけ姫」
- ⑥ 演 児童の感想 ・トレモロ ・ピチカット ・すくい爪 など 「千と千尋の神隠し」
- ⑦ 三.....
- ⑧ 「春の海」(箏のパートのみ)

- ・ いろいろな音楽が箏で弾けることがすごいと思った。音楽を弾きながら、音を変えていくときまちがえないのか？と思った。三味線も琴と同じで、指で押さえることで音が変わることがわかった。
- ・ 箏の音の出し方にあんなにたくさんの種類があることにとてもおどろいた。一番最後の曲は、とてもよく聴いたことがあって生で見て聴けたのでよかった。
- ・ 箏をならしてみたい。難しい曲にも挑戦してみたい。
- ・ すごくきれいな音で、曲によっていろいろな感じがした。十七絃の箏も弾いてもらい、十三弦の音よりも低いのがわかった。十七絃の箏の音もきれいだった。「もののけ姫」など、知っている曲も少し違った感じに聞こえた。次の箏体験がとても楽しみだし、がんばりたいと思

ゲストティーチャーが言葉の最後に「次はみなさんが、箏で『さくらさくら』を演奏します。」と話すので、どの子も振り返りに「次の時間が楽しみだ。」と書いてくれ、いつもの音楽の時間より楽しみにしている様子が伺えた。

○第四次・・・「さくらさくら」を演奏しよう（3時間）

- ・ 1/3時・・・爪のつけ方・姿勢・指の形を教してもらいながら、「さくらさくら」の4小節を演奏しよう。

授業の1時間前に2人のゲストティーチャーに来てもらい、調弦をしていただいた。このおかげですぐに授業に入ることができ、本当にありがたかった。この時間の評価規準は、「箏に興味をもち、積極的に演奏しようとしている。」であるが、どの子も一生懸命先生の話を聴き、箏を弾いていた。一人が箏を弾いている間は、「紙の箏」で弦をはじく練習をする子もいた。この「紙の箏」は準備しておいて本当によかった。その理由として①NEO—KOTOに合わせて、五・七・十弦に色をつけておいたので、紙と箏を対比させやすい。②弦の番号も書いておいたので、紙と楽譜をみれば、すぐに「さくらさくら」が演奏できる。③開いた時間に練習できる、といったことが挙げられる。

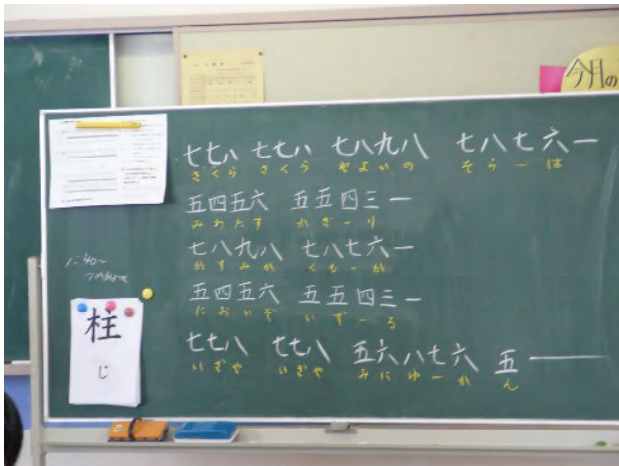
爪を合わせる時間や弾き方の指導もあったので、「さくらさくら」の練習時間は15分程度であったが、どの子も6小節目まで演奏することができた。

- ・ 2/3時・・・「さくらさくら」を完成させよう。（指導案 C-1）

この時間は、鹿島郡学教研音楽部会の研究授業も兼ねていた。前時と同じように2人のゲストティーチャーに来ていただいた。打ち合わせで、「この子たちは飲み込みが早いので、箏の奏法を生かした副次的な旋律や伴奏の創作を取り入れてはどうか？」とゲストティーチャーから提案があった。表現と鑑賞の関連を図るということでは、これこそがねらいにあった実践となるものである。しかし、ケチャの実践では、関心・意欲面での関連づけしか図ることができなかったため少し戸惑いもあったが、チャレンジしてみようと考えた。私の心配をよそに、子どもたちは先生から教えていただいた様々な弾き方で、2拍分の副次的な旋律を創作することができた。5つの班ともそれぞれの工夫をこらした「さくらさくら」になり、子どもたちの振り返りを見てもそれが楽しかったようだ。また、音楽部員の先生方も子どもたちにいろいろアドバイスをしてくださり、それが子どもたちの工夫につながったと感謝している。

もう一つの評価規準として「演奏している場面に接し、演奏の仕方や工夫、演奏の効果やよさを感じとっている。」は、ゲストティーチャーの演奏と自分たちの音と比べての感想

を振り返りに書いてもらった。先生は「さくらさくら」の変奏曲を演奏する中で、龍角から近いところ・遠いところの音の違いを意識できるように弾いてくださり、子どもたちはその違いに気づくことができた。



「紙の箏」で練習中。

児童の感想

- 全部弾けて、うれしかったし、楽しかった。工夫して弾くのは、楽譜に書いてあった難しいのをやってみた。人指し指で弾くのが難しかった。工夫して弾くとき少し失敗したけど、一応全部できてよかった。
- 工夫して弾いてみるので、一番すごかったのは3班です。みんなちがった弾き方をしていました。自分もほとんどできました。楽しかった。
- ほくたちは音の強さは同じだったけれど、先生は音が強かったり弱かったりしていたので、聴いていて楽しかった。
- 弾くとき、真ん中で弾いている音はなんだかやわらかい音がした。

3/3時・・・「さくらさくら」のミニ発表会をしよう。

前時の続きを練習した後、5年生の前で練習の成果を披露した。最初に16人で主旋律を演奏した後、できたところまでの演奏の工夫を発表した。5年生は6年生が箏の練習をしている姿を目にする機会も多く、一生懸命聴いてくれ拍手してくれた。

5年生の感想より

- どの班も箏の弾き方がすごかったです。終わりの時に、下に爪をおろしたのがかっこよかったです。みなさん、上手に箏をひいていました。
- 4班の「さくらさくら」はとてもきれいでした。ちがう音が混じっていたのできれいでした。どの班もよかったです。いろいろ工夫していたのがすごかったです。6年生の箏の演奏は上手でした。
- オリジナルのさくらは、箏のいろんなところで弾いてとってもうまかった、

